

[テニス]

石原伶奈シングルス準優勝 ダブルス石原・相羽ペア3位

関東学生トーナメント 5月16日から22日まで、昭和の森テニスクラブで行われ、女子シングルスで石原伶奈(文3・静岡市立高)が準優勝に輝いた。

石原は初戦から危なげなく勝ち進み、準決勝でも7—5、6—2とセットを落とさず実力を見せつけて勝利。「チームメートの好成績と、佐藤雅幸監督のご指導が心強かった」と語る。しかし、高校時代のパートナー、筑波大・松井との決勝は2—6、5—7で惜敗した。「あと一歩のところでは負けたのは悔しい。この一戦を次につなげなくてはならない」と決意を表した。

また、女子ダブルスでは石原・相羽望(文1・秀明英光高)ペアが3位、今野ひとみ(文4・藤村女子高)・古賀淳美(経済2・柳川高)ペア、池田奈穂(経済4・浦和学院高)・大川香奈(文3・富士見丘高)ペアがベスト8入りした。この結果、ダブルス3ペアが8月の全日本学生選手権(インカレ)出場権を獲得。シングルスでも石原、相羽、今野、古賀、大川、金澤杏里(経営3・藤村女子高)の6人が出場を決めた。ルーキーたちも一緒に、チーム全体が着実に力をつけている。インカレでの活躍に期待したい。



シングルス準優勝、ダブルス3位と健闘した石原伶奈(撮影・中西俊介)

(柴田 麻実・文2)

[ゴルフ]

男女・全国大学対抗戦へ

四国女子アマ横山が優勝 4選手日本女子アマへ

関東大学春季Aブロック対抗戦(女子)リーグ戦(男子)女子は3位で全国大学対抗戦(6月1516日)の出場権を獲得した。男子は5位と奮わなかったものの、予選会で、全国大学対抗戦への出場を決めた。

【女子=5/31・6/1、栃木県サンヒルズCC】1チーム5人中、上位4人の合計スコアで争われ、初日316、2日目317のトータル633で3位に食い込んだ。

【男子=5/23~27、福島県棚倉田舎倶楽部】

Aブロック6校によるリーグ戦で行われ、慶大に勝利するも1勝4敗(勝ち点1)で5位。しかし、翌日の全国大学対抗戦予選会で2位となり、出場権を獲得した。



浜島照佳監督と女子ゴルフ部員たち



四国女子アマチュア選手権で優勝した横山倫子主将(文3・香川西高)、関東女子アマチュア選手権で上位入賞した西村麻衣(商3・麻生高)、林佳世子(経営2・立正高)、横須賀直美(文2・駒場学園高)の4人が日本女子アマチュア選手権(6月21~25日)の出場権を獲得した。

(伊東 明希・文3)

《人Zoom Up》

フェンシング部 鈴木彩香 ―ユニバ日本代表思い切り楽しむ

5月3日、台東リバーサイドスポーツセンターで行われたユニバーシアード最終選考会を見事に勝ち抜き、女子フルーレで優勝を手にした鈴木彩香。その瞬間に同種目のユニバーシアード日本代表選手となった。その時の気持ちを「勝てないと思っていたので信じられない気持ちでいっぱいでした」と語ってくれた。女子フルーレ代表枠3人の中に選ばれたということは、荣誉あることであり、今までの努力のたまものである。

フェンシングは打突の有効面によりフルーレ(胴体)、エペ(全身)、サーブル(上半身)の3種目がある。フルーレは最も軽い剣を使うため、華麗な技の応酬が見もの。競技の魅力を尋ねると「運動が得意でない人でも取り組めるところです。実際、私は運動神経も良くないし、背も低いんです。その分、人一倍練習をして世界でも通用していくように頑張っていかなければならない」と笑顔で話す。小柄でかわいらしい彼女と話していると、昔から友達だったかのような不思議な錯覚に陥る。気さくで優しく、温かい人だ。

ユニバーシアード競技会は、8月にトルコで行われる。小学3年生から続けてきた中で、最高の舞台となるであろう。「選ばれたからには、日々の練習からしっかりと取り組み、技術を存分に吸収したい。大会では、一本一本を大切に、思い切り楽しみたい」と語る目はとても輝いていた。「勝つことだけにこだわらない」。最後に口にした言葉が強く心に残った。刻一刻と迫ってくる「舞台」に向けて、走り始めた彼女。思う存分にそのみなぎる力を発揮してほしい。これからの活躍に期待が膨らむ。



(矢口 蘭・文3)

[バスケットボール]

男女とも惜しくも4位 “秋季リーグ”に期待

大宮が優秀選手賞・リバウンド王に

第54回関東大学選手権 5月14日から29日まで、代々木第2体育館ほかで行われ、専大は4位に終わった。個人では大宮宏正(経済4・作新学院高)が優秀選手賞に選ばれ、リバウンド王にも輝いた。

初戦の国際武道大に快勝すると続く東洋大、明大に対しても個々がオールラウンダーぶりを見せ “どこからでも攻めることができる、”という今年の専大の底力を十分に発揮。しかし、準決勝は法大の厚いディフェンスに攻め手を欠き、敗れてしまう。3位決定戦でもリズムをつかむことが出来ず東海大にリードを許す。第4Qに意地を見せ、最大18点開いていた差をつめ、同点とするが、最後は詰めきれずに敗れた。中原雄監督は「精神的にまだまだだった。今はゼロから作り上げている段階」と話した。

(文・写真とも松本 旬平・経済3)



ゴール下でシュートする大宮

渋川ベスト8勝、リバウンド王

第39回関東女子学生選手権 5月12日から22日まで、代々木第2体育館ほかで行われ、専大は4位という結果で終えた。個人では、渋川愛子(文3・相模女子大高)がベスト8賞、リバウンド王を獲得した。

2回戦から出場の専大は順調に勝ち上がり、決勝リーグに進出。初戦で筑波大に62—80で完敗すると、チームを立て直せず、拓大、白鷗大にも敗れた。この結果に児玉茂監督は「秋までにコンビネーションとスピードのあるチーム作りを目指す」と語った。

(文・写真とも久我 智也・文3)



拓大戦でミドルシュートを放つ渋川

[バスケットボール]

日韓親善戦 生田で開催

韓国・高麗大学との親善試合(男子)が5月17日、総合体育館で行われた。「日韓親善国際バスケットボール大会 高麗大学VS明治大学定期戦」の一環として組まれたもので、試合には67―78で敗れた。

(撮影・松本)



高麗大戦での浅野崇史(「16」番)